



防衛大学校

NATIONAL DEFENSE ACADEMY





学生会

信州大学校



信州大学校

Noblesse Oblige

— 高い身分には義務が伴う

初代学校長 榎 智雄

防衛大学校は、将来陸上・海上・航空各自衛隊の幹部自衛官となるべき約2,000名の学生が4年間学生舎での団体生活をしながら学び、心身を鍛錬する防衛省の機関です。

学生は特別職の国家公務員であり学生手当が支給され、知識・技能の習得と己の成長に全力を尽くします。



沿革

- 1952(昭和27)年 保安庁の付属機関として保安大学校設置
- 1953(昭和28)年 横須賀市久里浜の仮校舎で開校
- 1954(昭和29)年 校名を防衛大学校と改名
- 1955(昭和30)年 横須賀市小原台の新校舎に移転
- 1957(昭和32)年 本科第1期生の卒業式を挙行
- 1962(昭和37)年 理工学研究科開講(大学院の修士課程相当)
- 1974(昭和49)年 人文・社会科学専攻を開講
- 1984(昭和59)年 防衛庁設置法の改正により施設等機関となる(防衛庁設置法第17条)
- 1989(平成元)年 本科の教育課程を改革、専門区分を学科に再編成
- 1991(平成3)年 本科及び理工学研究科が大学の学部及び大学院の修士課程相当と認定
- 1992(平成4)年 本科第36期卒業生に学士の学位授与
本科第40期生に初めて女性が入校
理工学研究科第29期卒業生に修士の学位授与
- 1996(平成8)年 理工学研究科教育課程を改革、専門・系列を専攻・大講座に再編成
- 1997(平成9)年 総合安全保障研究科開講(大学院の修士課程相当)
- 2000(平成12)年 人文科学教室等の16教室を廃止、総合教育学群を始めとする6学群21教育室・学科に組織改編
本科教育課程の専門区分を14学科とする
理工学研究科に前期課程及び後期課程設置
- 2001(平成13)年 理工学研究科後期課程開講(大学院の博士課程相当)
- 2007(平成19)年 防衛庁が防衛省に移行
- 2008(平成20)年 総合安全保障研究科に前期課程及び後期課程設置
- 2009(平成21)年 総合安全保障研究科後期課程開講(大学院の博士課程相当)
- 2015(平成27)年 教養教育センター及び国際交流センター発足
- 2016(平成28)年 グローバルセキュリティセンター発足
- 2018(平成30)年 先端学術推進機構発足



学生綱領

国家防衛の志を同じくしてこの小原台に学ぶ我々は、我々の手によって学生綱領を定めた。その目指すところは常に自主自立の精神をもって自己の充実にあり、厳しい特性の涵養に努め、もって与えられた使命の完遂に必要な進展性のある資質を育成するにある。我々は、誠実を基調としてこの綱領を實踐し、輝かしい防衛大学校の伝統を築くことを期するものである。

廉恥 真勇 礼節



防衛大学校は、将来陸上・海上・航空各自衛隊の幹部自衛官となるべき者の教育訓練をつかさどるとともに、そのために必要な研究を行う防衛省の施設等機関です。それは「大学」であり、同時に「士官学校」です。昭和27年（1952年）に保安大学校が設立されましたが、昭和29年防衛大学校と改名され、よく昭和30年に現在の小原台に移転して今日に至っています。

本校は幹部自衛官となるべき者の養成という明確な使命を持って設立されていますので、学生の進路が多様である他の大学以上に、その目的に沿った形でカリキュラム、課外活動、大学生活が設計されています。

一般大学と共通の部分もあります。本校でも、教養教育・外国語・体育・専門科目の履修が求められていて、幅広い教養と高度な専門性を身に付けることができます。幹部自衛官は何より幅広い教養と深い学識を備えていなければなりません。学問の基礎を学ぶとともに専門を深め、さらに古典を含めて大いに読書してもらうことは、他の大学と共通の課題と言えます。卒業生は学位授与機構の審査を経て、学士号を取得できます。

それに対して、以下は一般大学と異なる部分です。学生は特別職の国家公務員であり、学生手当（給与）・期末手当（賞与）が支給されます。また、衣食住（被服、食事、寝具等）についても大学が貸与又は支給します。学費は徴収されません。防衛大学校では、上で紹介した通常の大学での授業に加えて、防衛学科目を設置しています。防衛学とは、国防論、戦史、戦略、統率といった学問です。将来幹部自衛官となるべき学生に、幹部として求められる基礎的な科目を教育します。さらに学生は自衛官としての基礎的な訓練を、4年間を通じて学内外で受けることになります。この中には速泳・スキー・カッターなども含まれます。校友会（クラブ）活動に関しては、運動部等への加入を原則としており、課業後は練習できる時間を確保しています。運動関係の施設はほぼ完全に整備されています。ここで、心身を鍛えるとともに、学年、大隊を超えた人間関係を構築し、指導力を身に付けることができます。

本校は全寮制です。学生は学生舎と呼ばれる寮で生活し、集団生活に適応できる人間であることが求められています。それとともに、学生40-50人に1人の割合で指導教官が割り当てられています。イギリスのオックスフォード大学やケンブリッジ大学のカレッジも基本的に全寮制で、指導教官による徹底した少人数教育が行われていますが、防大の制度はこれとよく似ています。現在、日本国内を含め世界の多くの国を見ても、このような徹底した少人数教育を行っている大学はそれほど数多く存在しないのではないでしょうか。ちなみに、生活の場となるキャンパスは、富士山と東京湾の両方を臨む高台に位置し、自然環境に恵まれた場所です。

本校はこのような仕組みを用意することによって、学生が単に学問を修めるだけでなく、人格、体力、規律ある生活態度、その中の指導力、そして全般的な人間力を培っていただける環境を整えています。同時に、学生は真に理解し心を通じ合える友人を数多く得ることができます。他の大学ではしばしば、演習にも課外活動にも参加せず、大教室で講義を受け身で聞くだけの学生が存在し、とくに大学にあまり行かなくなってしまう学生の場合、友人もできないといった悩みを抱える場合が多数存在します。教官との接触も授業の場においてのみということも少なくない

でしょう。本校においては、少人数教育のため教官との接触も多く、また4年間に及ぶ濃厚な付き合いの中で一生の親友を数多く得ることができます。厳しい訓練もありますが、ともに励まし合って成し遂げた後の達成感は筆舌に尽くしがたいものがあります。その感動の頂点が、家族のみならず総理大臣・防衛大臣が列席する前で挙行される卒業式です。

防衛大学校には創設にかかわった吉田茂首相、楨智雄初代学校長らの思想や価値観が強く刻印されています。吉田首相は戦前の海軍・陸軍の対立を念頭において、陸・海が別個の士官学校を持つことに反対し、二者が一体となって幹部を養成することを強く主張しました（空は遅れて発足）。戦前の軍指導者の軍事に偏った発想にも批判的でした。楨校長は、学生は「武人」である前に紳士（今であれば紳士淑女）でなければならぬと考え、まさにオックスフォードやケンブリッジ的なリベラルアーツ（教養）教育と全寮制教育を重視しました。楨校長はさらに、学生に対して「民主制度に対する的確な理解」を持つことを求めました。

もちろん、創設以来70年以上が経ちましたので、様々な変化もあります。吉田首相は戦前の軍指導部には科学的発想が欠けていたと考えたため、本校は理工系の大学として発足しましたが、1970年代からは人文・社会系を加えた総合大学に変化しました。最初が学部レベルのみの教育機関でしたが、1960年代には早くも大学院修士課程に相当する理工学研究科を開講し、現在は理工学研究科と総合安全保障研究科それぞれに博士課程に相当するプログラムも擁しています。

また、防衛大学校は幹部自衛官となるべき者の教育訓練をつかさどるとともに、それに必要な研究を行う防衛省の研究機関としても重要な役割を果たしています。毎年約100名の女子学生が入学し、全学生の5%前後が海外からの留学生であるのも、創設期からみると巨大な変化です。

防大生も、全学生のおよそ10人に1人は卒業までに、米国の士官学校への留学をはじめとして1度は海外に出る機会を得ています。令和7年からは米士官学校への4年間留學も開始しました。言うまでもなく、自衛隊の使命は、国民の命と財産、領土、そして平和な暮らしを守ることです。災害派遣と国際平和協力も重要な使命として位置づけられています。防大生にもこれらの使命のために自分の人生を捧げる決意が求められます。国民の生活を守る幹部自衛官の養成という点では、本校の目的は設立以来いささかも変わっていません。むしろ変化したのは国際環境と日本国民が自衛隊を見る目でしょう。遺憾ながら、我が国を取り巻く国際環境は近年急速に悪化しており、自衛隊の役割と自衛隊への期待はますます大きくなっています。同時に、2011年の東日本大地震などでの災害派遣活動、海外での平和維持活動（PKO）や人道支援、あるいは最近の東京・大阪での新型コロナウイルスワクチンに係る自衛隊大規模接種センターの設置・運営などを含む長年の地道な活動を通じて、自衛隊に対する信頼と評価は着実に上昇しています。国民のために奉仕する人生を考える若者にとっては、ますますやりがいのある仕事になっていると確信しています。防衛大学校は、これまでの実績に基づき、その中核的使命を果たしつつ、必要な変革を成し遂げながら、今後も優れた幹部自衛官を送り出すことに一層邁進していく所存です。どうぞよろしくお願いたします。

防衛大学校長 久保 文明

教育・訓練

広い視野、科学的な思考力、豊かな人間性を涵養する教育
そして幹部自衛官として必要な知識、気力、体力を養う訓練

教育課程

本校の教育課程は、文部科学省の定める大学設置基準に準拠し、一般大学と同様の教育とともに本校独自の防衛学（防衛に関する学術分野）の教育を行います。また、国内外の著名人による課外講演や、授業の一環としての施設見学、校内外の教授による特別講義等があります。

本科一般コースの卒業生には、大学改革支援・学位授与機構の審査を経て一般大学と同様に学位（学士）が授与されます。

全学共通基盤教育

教養教育

外国語

体育

専門基礎

防衛学

専門学科

人文・社会科学専攻

人間文化学科



公共政策学科



国際関係学科



理工学専攻

応用物理学科



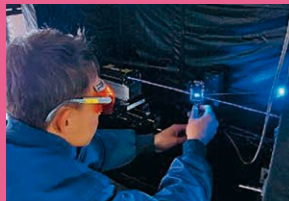
応用化学科



地球海洋学科



電気電子工学科



通信工学科



サイバー・情報工学科



機能材料工学科



機械工学科



機械システム工学科



航空宇宙工学科



建設環境工学科



Voice



防大の学科は幅が広く、自分の学びたいことが必ず見つかります。訓練は学年が上がるにつれて専門的・発展的なものになります。大変な訓練もありますが、同期の存在に励まされ、一緒に乗り越えることで一層絆が深まります。（第4学年 地球海洋学科専攻）

1学年

2学年

3学年

4学年

訓練課程

防衛大学校における訓練は、共通の訓練と2学年から陸上・海上・航空要員別に分かれて実施される要員別の訓練に区分され、毎週2時間を基準とする課程訓練と、春・夏・秋・冬に年間約6週間の定期訓練を実施します。4年間で約1,000時間の訓練を行います。

共通訓練

部隊見学、基本教練、各個戦闘訓練、小銃、野外勤務、カッター、衛生、体育、水泳、スキー、教育法、硫黄島研修等



要員訓練

陸上要員訓練

戦闘訓練
野戦築城
歩哨・斥候
各種武器
通信
指揮運用基礎
部隊実習 等



海上要員訓練

航海概論
水泳
気象
信号通信
海事法規
カッター
ヨット
機動艇
艦橋副直士官演習
乗艦実習
航空実習 等



航空要員訓練

滑空機訓練
航空作戦
指揮幕僚活動
航空機整備
通信電子
航法
保命
航空交通管制
部隊実習 等



1学年

2学年

3学年

4学年

学生生活

規則正しい団体生活のなかで見えてくる本当の自分と向き合い、なすべきことをなす
その時間のすべてが自らの力となる

学生隊

学生隊とは学生が編成する組織で、学生の共同生活を円滑にし、あわせて学生が将来自衛隊の部隊において行う指揮、指導、管理能力の向上及び自立心を涵養するものです。

学生隊は4個大隊からなり、1個大隊は4個の中隊、1個中隊は3個の小隊で編成されています。1個小隊の人数は30~40名ほどです。

学生は入校と同時に全員学生隊に所属します。各種競技会等校内における行事は学生隊を主体に行われます。



それぞれの大隊にはシンボルとなるカラーとマークがあります。
各学生舎の玄関にはこのマークが飾られ、競技会等では構内がそれぞれのカラーで彩られます。

また、令和8年度には第5大隊が復活することが決まっています。



Voice



防衛大学校の学生隊に所属する約2000人の学生は、全員が「学生舎」と呼ばれる寮で共同生活を送ります。学生隊は令和8年度から、5つの大隊となり、各大隊に3個中隊、中隊の下に3個小隊という構成になります。

学生舎は、在学期間の大半を過ごす場であり、規律を重んじた生活の中で自律心や協調性が養われます。学生舎生活は組織での行動が求められることが多く、起床から清掃、点呼、食事、自習、就寝に至るまで日課が細かく定められています。

また、リーダーシップやフォロワーシップを養うため、学生舎での部屋は1~4学年混成とし、日々のコミュニケーションを通じて「学生間のつながり」が醸成され幹部となる素養が培われます。

さらに、日々の生活を通じて規律正しい習慣や組織運営能力を磨くことが求められ、仲間との助け合いや信頼関係が必要不可欠です。学生舎は単なる居住の場ではなく、将来の幹部自衛官として必要な心構えや人間性を鍛える教育の場であり、防衛大学校生としての誇りや結束を深める重要な役割を担っています。 (第4学年 電気電子工学科専攻)

防衛大学校では、毎週月曜日の昼食時、学生全員が食堂に集合し、一斉に食事をします。
月曜日の昼食は毎週カレーが提供されています。

学生の1日



22:30
消灯

年間行事

防衛大学校にしかない行事

ここでしかできない体験、ここでしか味わえない感動は心の糧となる

4月 入校式



春季定期訓練



カッター競技会 (2学年)



隊歌コンクール (1学年)



Summer

7月 夏季定期訓練



遠泳訓練 (1学年)



9月 水泳競技会



前期定期試験

Spring

防衛大学校では、各大隊が競い合う様々な競技会やコンクールなどが行われます。

優勝すると看板が授与され、各大隊の玄関に誇らしげに掲げられています。

Winter

10月 秋季定期訓練



11月 開校記念祭



12月 冬季定期訓練 (硫黄島)



1月 冬季定期訓練 (2学年)



後期定期試験

2月 国際士官候補生会議



3月 卒業・進級前訓練

断郊競技会 (3学年)



持続走競技会 (4学年)



卒業式



Autumn

校友会活動

自己を鍛錬し、仲間とともに目標を追いかける
学年を超えた絆を築く場所



委員会等

- 短艇委員会*
- 雑誌委員会
- 放送委員会
- 写真委員会
- 応援団リーダー部*
- アカシア会（社交ダンス）
- 儀仗隊*

運動部*

- バスケットボール部
- 山岳部
- ワンダーフォーゲル部
- 柔道部
- 水泳部
- パラシュート部
- ラグビー部
- ハンドボール部
- 準硬式野球部
- サッカー部
- アメリカンフットボール部
- 合気道部

- 剣道部
- ヨット部
- 体操部
- 空手道部
- 銃剣道部
- 弓道部
- バレーボール部
- グライダー部
- 少林寺拳法部
- 卓球部
- ソフトテニス部
- フェンシング部

- 陸上競技部
- ボクシング部
- ウェイトリフティング部
- 硬式庭球部
- レスリング部
- 硬式野球部
- ボート部
- バドミントン部
- 射撃部
- フィールドホッケー部
- 居合道部

文化部

- 茶道部
- 弁論部
- 英会話部
- 棋道部
- 吹奏楽部*
- 音楽部
- 軍事史研究部
- 軽音楽部
- 国際関係論研究部

TOPICS

04

防大生は原則全員が希望する運動部等（*印）に入部することになっています。あわせて文化部や同好会にも入部することができます。



同好会

- 自動車同好会
- 美術同好会
- タイ文化研究同好会
- 韓国文化研究同好会
- 紅太鼓同好会
- ベトナム文化研究同好会
- インドネシア文化研究同好会
- 文芸同好会
- 書道同好会
- モンゴル文化研究同好会
- カンボジア文化研究同好会
- 東ティモール文化研究同好会
- コンピュータ研究同好会
- ダイビング同好会

- 伝統文化研究同好会
- スキー同好会
- ジャズ研究同好会
- ピアノ同好会
- ミャンマー文化研究同好会
- ダンス同好会
- フィリピン文化研究同好会
- ボードゲーム同好会
- 演劇同好会
- ラオス文化研究同好会
- 壘球同好会
- ボランティア活動同好会
- 宇宙システム技術研究同好会
- マレーシア文化研究同好会

Voice



校友会は防衛大学校の三本柱の1つであり、一般的には部活動のことです。校友会を通じ体力・気力の増進や学生の親睦を図り、もって教育訓練の完成に資するものです。大きく運動部等と委員会・文化部・同好会に分けられ、前者は世間一般的なものから儀仗隊といった珍しいものまで、後者は伝統文化や音楽系、学術系などがあるため自分の興味のある校友会が見つかると思います。

私は、運動部は空手道部に、文化部は弁論部に所属していますが、他大隊所属の学生とコミュニケーションを取れる良い機会でもあり、やりがいを感じています。（第4学年 公共政策学科専攻）

国際交流

世界を知り新しい自分と出会う

防衛大学校での交流が世界と日本の平和の架け橋となる

防衛大学校から世界各国の士官学校へ

将来の幹部自衛官として必要な国際的視野に立脚した識見を養うとともに、進展性のある資質を育成するため、年間50名程度の学生を各国に派遣しています。

各派遣期間に合わせて第2～4学年の学生を対象に、成績や語学力を考慮し選考されます。

長期留学

4年間



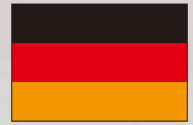
米陸軍士官学校
米海軍兵学校
米空軍士官学校

約1年間



韓国空軍士官学校

約4か月間

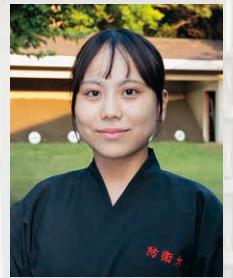


各士官学校



Voice

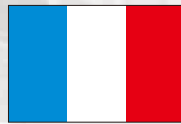
私は3学年時に、約半年間、米空軍士官学校への留学を経験しました。現地では米空軍士官候補生と同様の生活を送り、平日は共に学業や訓練に励み、休日はハイキングやスキーなどの活動を通じて様々な学生と交流を深めました。半年間にわたる共同生活を通じて、将来、他国との共同任務に必要なコミュニケーション能力と国際的な視点を養うことができました。留学中は日本の代表として見られる緊張感もありましたが、一方で自国の制度や文化、魅力を見つめ直す貴重な機会となるほか、自身の将来の職務に直結する大きな学びを得ることができる制度です。防衛大学校でしかできない海外士官学校への留学にぜひ挑戦してみてください。



(第4学年 国際関係学科専攻)

短期留学

約1～3週間



Voice



私は昨年11月にフランス空軍士官学校で開催された宇宙防衛セミナーに1週間参加しました。セミナーで印象的だったのは、普段は関わることのできない海外の候補生と一緒に過ごせたことです。短期間ではありましたが、互いの文化や考え方に触れることで大きな刺激を受け、その後の防大生活でのモチベーションも高まりました。セミナーへの参加を通じて築いたつながりは今でも続いており、連絡を取り合う仲間もいます。また、この期間だけで英語力を大幅に伸ばすことは難しいかもしれませんが、得られる学びや出会いがあり、自分の視野を広げる貴重な機会になると実感しました。

「国際交流に挑戦してみたい」「モチベーションを高めたい」と思う方にとって、絶好のチャンスです。

(第4学年 航空宇宙工学科専攻)

世界各国の士官候補生が防衛大学校へ

本校ではこれまでにタイ、シンガポール、マレーシア、フィリピン、インドネシア、モンゴル、ベトナム、韓国、ルーマニア、カンボジア、東ティモール、ラオス、ミャンマー、トンガ及びフィジーの士官候補生を留学生として受け入れています。留学生は1年間日本語教育を受けたのち、4年間日本人の学生と教育訓練を受け、生活をともにします。卒業後は母国へと戻り、各国の軍隊の士官となります。



Voices

留学生は防衛大学校を卒業するのに5年かかります。留学期間中は、日本人の学生と寝食を共にするため、お互い自然と仲良くなります。卒業後は、母国と日本をはじめとする関係各国と防衛交流をはじめ、文化交流、語学学習の架け橋となっていきたいと思っています。
(第4学年 電気電子工学科専攻(ベトナム出身))



国際士官候補生会議 (ICC)

諸外国の士官候補生を招へいし、国際情勢や安全保障について意見交換、グループ討議、全体発表などを行う、防衛大学校主催の国際会議です。各国と我が国の将来の安全保障に繋がる相互理解と信頼関係の醸成を目的に実施しています。また、学生が国際交流の機会をもつことで国際感覚を醸成し、また、国際的視野の拡大及び語学力の向上を目指しています。



アメリカ、オーストラリア、インド、イギリス、フランス、ドイツ、イタリア、韓国、カナダ、ニュージーランド等、世界各国から約20か国の士官候補生を招き、5日間程度の日程で実施しています。令和6年度で第28回を数え、活発な討議と校内外における文化交流は将来国外での任務も担う学生にとって大きな刺激となり、語学を学ぶ上での目標となります。

訓練・スポーツ交流

サンドハースト競技会



米陸軍士官学校において実施される各国の士官学校の威信をかけた総合戦技競技会です。

国際士官候補生ラグビー競技会



諸外国の士官学校と防衛大学校の学生がラグビーを通じて交流します。
(令和7年度は防衛大学校で実施)

アドミラルズ・カップ



インド海軍士官学校が実施するヨットレースにヨット部が挑戦しています。

キャンパスマップ

東京湾と富士山を臨む約650,000㎡の広大なキャンパスで過ごす4年間
幹部自衛官への道のりの始まりの地であり、生涯忘れえぬ場所



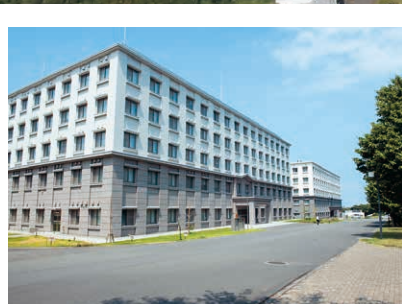
学生舎

学生が起居する建物です。寝室、自習室のほか、集会室、シャワー室、洗濯室、乾燥室、調理室などが完備されています。



人文科学館

人文科学、語学等の教育・研究を行っています。



教育研究A・B館

教場、実験室、実習室、研究室等が揃っており、理工学の教育・研究を行っています。



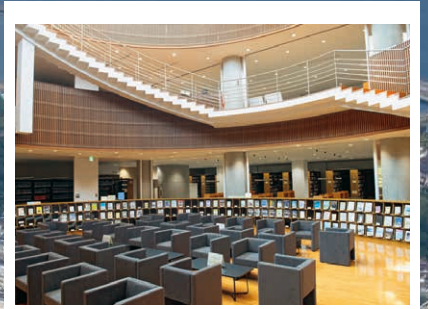
海上訓練場

通称「ボンド」と呼ばれるカッターや機動艇訓練が実施される訓練場です。短艇委員会やヨット部等の活動拠点でもあります。



運動施設

全天候型400mトラックの陸上競技場、人工芝のラグビー場、アメリカンフットボール場、サッカー場、テニスコートや野球場、球技体育館、総合体育館、武道場と充実しています。



総合情報図書館

60万冊の図書を蔵書しており、軍事防衛分野の図書が特に充実しています。地下1階の吹き抜けの円形ブラウジングコーナーでは国内外の新聞・雑誌を読むこともできます。



記念講堂

2300席と広々とした講堂で、入学式、卒業式をはじめ、様々な行事や教育が行われます。50周年を記念し同窓会より寄贈された大きなステンドグラスが飾られています。



資料館

防衛大学の歴史や教育理念、学生の生活、教育訓練、校友会活動等について知ることができる展示が並びます。初代学校長の建学精神を紹介する「横記念室」もあります。



本部庁舎

正門を入ると正面に見える建物です。学校長をはじめ、事務を担当する事務官、自衛官が勤務しています。

更なる学びへ

果てない探求心を満たし、高度な研究で自衛隊の任務遂行へ貢献する
そして世界の安全保障研究の拠点の1つとしての役割を担う

研究科

自衛隊の任務遂行に必要な高度の理論と応用について知識並びにこれらに関する研究能力を修得させるための教育を行うことを目的とする、大学院相当の課程です。

部隊勤務を経て、防衛省各機関の長の推薦により受験資格を得ることができます。

理工学研究科

理学及び工学に関する高度の理論と応用についての知識、これらに関する研究能力を修得する前期課程（修業年限2年）、装備等の開発能力を有する人材を育成するため、専門的かつ高度な研究能力及びその基礎となる学識を修得する後期課程（修業年限3年）があります。



国防を担うためには科学技術が必要不可欠であり、自衛隊員も精通する必要があります。ここには研究に専念できる環境が整えられており、自ら設定する研究テーマに日々取り組み、高度な専門知識の取得に努めています。
(理工学研究科前期課程（情報数理専攻） 3等空佐)



総合安全保障研究科

社会科学の専門的学識に裏付けられた安全保障に関する幅広い視野と高度の実践的問題解決能力を養うための教育を行う前期課程（修業年限2年）、安全保障研究の一大拠点として高度化・多様化した安全保障・戦略問題の最新の研究成果を踏まえ、安全保障の広い領域にわたる高度の専門的学識と実務的能力を持つ人材を養成する後期課程（修業年限3年）があります。



本科を卒業後、約20年を経て研究科に入りました。自衛隊の実務では安全保障に関する幅広い知見が必要になる反面、経験や自己研鑽で補うには限界があります。本課程は、学びを必要とする者へ機会を与えてくれます。
(総合安全保障研究科前期課程 2等陸佐)



グローバルセキュリティセンター



平成28年4月に発足したグローバルセキュリティセンターは、国際社会が直面する多種多様な安全保障課題を多角的に研究し、その研究成果を広く発信しています。文理融合型の統合的な研究アプローチを特徴とし、約300名の防衛大学校教官の専門知識を総動員し、人文社会科学、理工学、防衛学による学際的な最先端研究に取り組みます。

また、国内外の研究者と積極的に交流し、防衛大学校を安全保障研究の一大拠点として世界にアピールしていきます。こうして学内に蓄積されていく研究成果は、最先端の知見として学生の教育に還元されています。

アジア安全保障/サイバーセキュリティー/宇宙安全保障/海洋安全保障/
感染症対策と安全保障/防災・危機管理/ジェンダー・メンタルヘルス
ミリタリープロフェッショナリズム

安全保障・軍事作戦法規/デュアルユーステクノロジー

シミュレーション、オペレーションズ・リサーチ/電磁波安全保障

の12分野に焦点を当て、多様で実用的な研究を国内外の研究者と協働して進めています。こうした研究成果としてセミナー叢書や研究叢書及び調査報告の発行をしています。



防衛大学校をもっと知りたい方へ

■ キャンパス見学「防大ツアー」

ツアーガイドの案内で卒業式の帽子投げで有名な記念講堂、本校の歴史が一目でわかる資料館、防大グッズが購入できる学生会館等を見学できます。



毎週水曜日 12:30～14:30開催中 お申し込みはホームページで受け付けております。

■ 東京湾史跡見学ツアー（仮）

防衛大学校の敷地内に残る東京湾要塞の痕跡を巡ります。

※不定期開催

防衛大学校ホームページ等でご案内します。



防衛大学校
ホームページ



防衛大学校
公式X



防衛大学校
入試広報X



防衛大学校
広報チャンネル

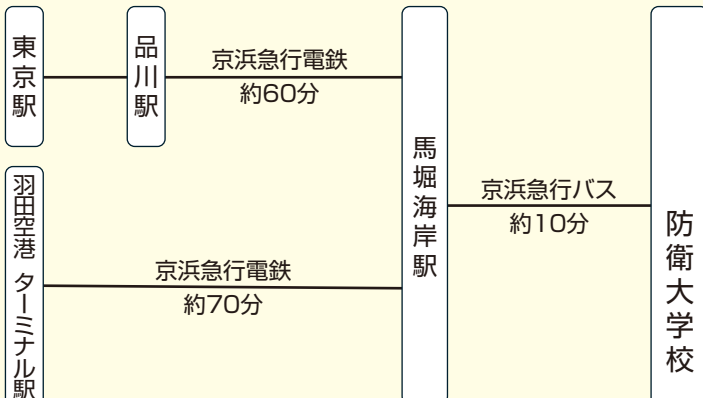


防衛大学校
入試広報チャンネル



交通アクセス

公共交通機関で



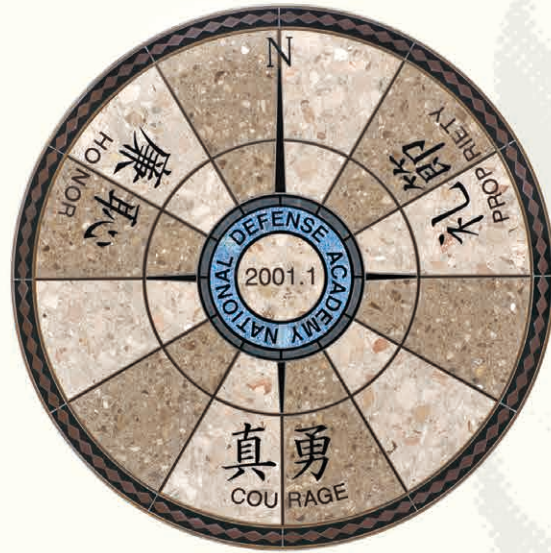
お車で



防衛大学校

〒239-8686 神奈川県横須賀市走水1-10-20
MAIL ndainfo@nda.mod.go.jp

TEL 046-841-3810



リサイクル適性(B)

この印刷物は、板紙へ
リサイクルできます。

刊行日：2025.11